

対象案件	北広島市小中一貫教育推進基本方針(案)概要版について
意見募集期間	平成 28 年 12 月 15 日(木)から平成 29 年 1 月 16 日(月)まで
担当部署(問合せ先)	教育部 学校教育課 電話 011-372-3311 内 891
意見提出件数	意見提出者数 12人
	意見提出件数 33件

提出のあった意見の概要	市の考え方 (案を修正したときは修正内容)
別紙のとおり	別紙のとおり

北広島市小中一貫教育推進基本方針(案)概要版

	提出のあった意見の概要	市の考え方(案を修正したときは修正内容)
<b>【小中一貫教育導入の経緯と考え方】</b>		
1	<p>現在の教育活動でも、子どもたちが十分に育っていると考えていますが、何故、小中一貫教育を導入するのでしょうか。</p>	<p>本市では、平成23年度に北海道教育委員会の「小・中学校ジョイントプロジェクト」事業の研究指定を受け、小学校と中学校間の連携による義務教育段階の学習内容の確実な定着を図る学習指導等の在り方についての実践的な研究を行い、研究成果の普及を図ってきました。</p> <p>同時に、小中一貫した学習・生活習慣の醸成、学習指導・生徒指導上の課題対応など、教職員の情報交換や交流研修会を中心とした全ての中学校区単位での小中連携の取組を推進してまいりました。</p> <p>小中連携に取り組んできた成果として、中学校区単位での「めざす子ども像」の共有により、小中学校が協働と接続・連携を意識し、学習規律、生活習慣等において、系統性のある指導を進めるための工夫・改善が進み、学習指導・生徒指導上の課題に対応しやすくなり、また、キャリア教育の全体計画を作成し、「きたひろ夢ノート」を中核とする教育活動をスタートすることもできました。</p> <p>一方で、小中学校それぞれの教育活動の上に進められる連携であるため、お互いの取組への評価・要望だけに終わってしまう傾向があり、小中学校の教職員が、小学校、中学校の枠に止まることなく、義務教育9年間の系統性・連続性に配慮した一貫性のある教育活動を展開しようとする意識への転換や、児童生徒の学習上の悩みや問題行動等に対応するためにも、指導体制や学習指導方法など、教育課程の改編に踏み込んだ一貫した取組へと発展させる必要性がありました。</p> <p>本市の小中一貫教育の導入につきましては、小中連携に取り組んできたことによる成果と課題の検証を踏まえたものでありますが、全ての教職員が義務教育9年間に責任を持って教育活動を行う小中一貫教育の取組が継続的・安定的に実施できる法改正がなされ、制度的基盤が整備されたことも後押しとなりました。</p> <p>なお、全国の小中一貫教育の導入事例におきましては、一部の中学校区をモデルとして、その後、他校区に拡大していくケースがありますが、本市の場合は、これまでの各中学校区における小中連携の取組が基盤にありますので、全ての中学校区で一斉に小中一貫教育を導入することを基本的な考え方としております。</p>
<b>【学年段階の柔軟な区切り】</b>		
2	<p>概要P5の1の(3)「学習指導要領に準じた教育課程を編成」の現行の教育制度(6・3制)から「4・3・2制」や「5・4制」の柔軟な学年区分が重要になって</p>	<p>学年段階の区切りにつきましては、児童生徒の発達段階に適切に対応する観点から、6－3制の大きな枠組みを維持しつつも、学校段階を超えた学年段階の区切りを柔軟に設けた上で、区切りごとに重点を定めて指導体制を整え、</p>

北広島市小中一貫教育推進基本方針(案)概要版

	提出のあった意見の概要	市の考え方(案を修正したときは修正内容)
	<p>くると思っています。</p> <p>著しい発達段階と教科内容が難しくなってくると言われている現行の小学3・4年生の期間をじっくりと学習できる時間や、いろいろなことに挑戦して自信につなげることが大切に思います。そして、めざす子ども像の「心豊かに 大志を いただき たくましく 生きる子ども」の育成を願っています。</p>	<p>学校段階間の円滑な移行や教育活動を充実させる取組が全国の小中一貫教育を導入する小中学校で行われています。</p> <p>本市といたしましても、小中一貫教育を実践していく上で、それぞれの学年段階での指導上の重点や具体的な目標等を定め、学年段階の区切りの柔軟な設定について研究し、義務教育9年間の系統性・連続性に配慮した教育課程を編成してまいります。</p>
<b>【中学校区スタンダードについて】</b>		
3	<p>「〇〇スタンダード」と形の統一の方向に進むよりも、一人ひとりの実態に合わせた学びの形の工夫と保証、それを継続させていくことにこそ、小中一貫の意義があるのではないかと考える。よって、少人数学級の実現や指導・支援者の増員等も視野に条件整備をお願いしたい。</p>	<p>小学校段階での規律指導と中学校段階での校則に基づく生徒指導の間には大きな差があり、保護者や生徒とのトラブル発生の原因や、学校段階間のギャップが生じる原因の一つになっているとの指摘もあります。</p> <p>小中一貫教育を導入する学校間のルールに大きな差があると、ルールを軽視する態度を誘発しかねないものですし、逆に学校間に確固たる方針があれば、教員間で足並みをそろえることができ、指導の継続につながるとともに、保護者との信頼関係の強化にも効果が期待できます。</p> <p>こうしたことを踏まえ、全国の小中一貫教育の先進事例では、学習活動を効果的・効率的に実施するとともに、子どもたちが安心して学べる学習環境を学年段階・学校段階を超えて安定的に確保するなどの観点から、発達段階に応じて表現に配慮を加えつつ、「〇〇スタンダード」などの名称で、9年間を見通した学習規律・生活規律を中学校区ごとに設定している例があります。</p> <p>本市の進める小中一貫教育におきましても、子どもたちの一人一人の発達を支え、資質・能力を育成するという観点から、児童生徒の発達の特性や教育活動の特性を踏まえて、各学校が行う学習・生徒指導についても充実を図っていくことが必要と捉え、北広島市小中一貫教育推進基本方針に中学校区ごとのスタンダードの確立と実践を掲げております。</p> <p>このスタンダードを踏まえた子どもや地域の実態に即した学習・生活習慣の定着を図ってまいりたいと考えます。</p> <p>少人数学級の実現については、理解度や興味・関心に根差したきめ細かな指導や教員と児童生徒との関係の緊密化など、多くの効果が期待できますので、本市としても引き続き北海道教育委員会を通じて、国の財政当局への働きかけを継続していきたいと考えます。</p>
<b>【キャリア教育「大志学」について】</b>		
4	<p>「大志学」《キャリア教育》の本質がわかりづらいと思います。</p>	<p>大志学は、現在各小中学校で実践が行われているキャリア教育を「大志学」として教育課程に位置づけ、児童生徒一人一人の社会的・職業的自立に向け、</p>

北広島市小中一貫教育推進基本方針(案)概要版

	提出のあった意見の概要	市の考え方(案を修正したときは修正内容)
		<p>必要な基盤となる能力や態度を育てることをねらいとしております。</p> <p>具体的には、夢や目標に向かって挑戦する心を育てる「きたひろ夢ノート」の実践継続と、地域の教育資源(人、自然、歴史、文化、産業等)を活用した体験学習等の充実により、4つの基礎的・汎用的能力(「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」)の育成に取り組んでまいります。</p>
<b>【学校行事について】</b>		
5	<p>学校行事の見直しがあった場合は、地域への説明をお願いしたい。</p>	<p>小中一貫教育の導入時には、各中学校区の児童生徒の実態や課題を踏まえた中で、目標や「めざす子ども像」を明らかにし、その目標達成に向けた協働的な教育活動をつくり上げていくことが重要であり、学校・家庭・地域が一体となって、「子どもの連続した学び」を支えていく必要があります。</p> <p>小中一貫教育への移行に伴い、小学校と中学校とが一緒に活動したり、取り組んだりすることが増えるものと考えています。</p> <p>地域に出での活動や学校間の交流など、特色のある教育活動や行事が計画され、地域の方々や保護者の皆様にご支援をいただくことも想定されます。</p> <p>また、そうした創意工夫の中で、学年段階の区切りの柔軟な設定について研究・協議が進むものと考えています。</p> <p>こうした異学年交流や合同行事、学年段階の区切りの見直しなどは、地域との密接な連携等にも大きく関係いたしますことから、「教育を語る会」等を通じて、保護者、地域住民の皆様丁寧に説明していきたいと考えています。</p> <p>また、学校だより等各種通信やホームページ、地域行事なども活用しながら、積極的な情報提供に努めてまいります。</p>
<b>【施設隣接型や施設分離型の小中一貫教育を進める工夫】</b>		
6	<p>小学校と中学校の校舎が離れている中で、どの様に小中一貫教育を進めるのでしょうか。</p>	<p>本市が進める小中一貫教育は、小学校と中学校の校舎は別々という条件の中で、比較的距離が近い施設隣接型(西部中学校区、広葉中学校区、緑陽中学校区)と、距離が離れた施設分離型(東部中学校区、大曲中学校区、西の里中学校区)を学校施設の形態として整理しています。</p> <p>施設一体型で小中一貫教育を行う場合と比べ、小中学校教員による相互乗り入れ授業や異学年交流、教職員同士の会議や研修の機会の確保など、校舎間の距離によって児童生徒や教職員の交流等が難しくなります。</p> <p>しかしながら、このような交流等を実践することが小中一貫教育導入のねらいではなく、教職員の配置状況や優先事項、児童生徒、教職員の負担等も考慮した中で、「児童生徒の成長のためにどのような取組が必要なのか」という視点</p>

北広島市小中一貫教育推進基本方針(案)概要版

	提出のあった意見の概要	市の考え方(案を修正したときは修正内容)
		<p>で、教育活動をつなげる取組を進めていくことが肝要であると考えます。</p> <p>なお、一つの中学校に複数の小学校が接続する形態の小中一貫教育は、複数の小学校が、中学校段階の課題を直視した上で、中学校卒業時の「めざす子ども像」を共有しながら、小学校同士の連携を図り、課題解決のための共通した考え方や取組を推進していくことが重要となります。</p> <p>中学校のリーダーシップの下、教職員間の交流や研修等を通じて小学校同士のつながりが強まるよう配慮することで、より質の高い系統性のある指導や9年間連続した教育課程の編成、実施を進めることが期待されます。</p> <p>全国の小中一貫教育の取組の大多数は、施設隣接型や施設分離型の校舎の下で実践され、学習指導・生徒指導上で顕著な成果を出している事例も多数存在しますので、このような先進事例も十分に参考・検証しながら、各中学校区の実態を踏まえた小中一貫教育を進めてまいりたいと考えます。</p> <p>また、今年3月には、施設分離型の小中一貫教育に係る「第3回教育を語る会」の開催も予定しております。</p>
<b>【小中一貫教育推進基本方針等の策定状況】</b>		
7	「北広島市小中一貫教育推進基本方針(案)」のような方針等は、全国的に策定が進んでいるのでしょうか？	<p>文部科学省が実施した小中一貫教育等についての実態調査によりますと、平成26年5月1日現在で、全国の211の市町村(小学校2,284校、中学校1,140校)が小中一貫教育を導入しており、このうち、約7割にあたる145の市町村が小中一貫教育の目的や基本理念を記載した小中一貫教育を推進するための方針・計画等を策定しております。</p> <p>教育委員会が小中一貫教育を導入しようとする目的や基本的な方針等を、学校関係者や保護者、地域住民の皆様にも周知し、ご理解をいただくことで、小中一貫教育の取組を円滑に推進していくことが可能となるため、一定の方針や計画等の策定は重要であると考えられます。</p>
8	石狩管内の市町村でも、同様の教育方針が進められているのでしょうか？	<p>石狩管内では、当別町が平成29年度からの全町一斉小中一貫教育の導入に向けて、「小中一貫教育に関する取組基本方針」を策定し、この基本方針に沿った取組を進めております。</p>
<b>【小中一貫教育の先進事例の研究】</b>		
9	大学での研究や先行事例を踏まえた、より具体的な方策を提示いただきたい。それによって現場では、スタート段階での膨大な業務軽減を図ることができると思う。	<p>小中一貫教育の導入にあたっては、ご指摘をいただきましたとおり、大学における研究や全国の先進事例も参考に市として研究を進め、得られた成果を具体的な取組に反映し、推進していくことが重要と考えています。</p> <p>本市では、京都府京都市、東京都三鷹市、広島県呉市などの小中一貫教育の先進地視察をこれまで実施し、併せて、全国の小中一貫教育導入の成果や</p>

北広島市小中一貫教育推進基本方針(案)概要版

	提出のあった意見の概要	市の考え方(案を修正したときは修正内容)
		課題等の検証、文部科学省講師による講演会の開催等を通して、本市がめざす小中一貫教育の全体像を描き、中学校区ごとに具体的な取組を進めることの効果等を検証してまいりました。
10	一概に同じようには考えられないが、札幌の「市立札幌開成中等教育学校」のやり方も参考にすると良いかと思えます。	本市では、京都府京都市、東京都三鷹市、広島県呉市などの小中一貫教育の先進地視察をこれまで実施してきており、引き続き全国の小中一貫教育の導入の成果や課題等を検証してまいります。 「市立札幌開成中等教育学校」につきましては、中学校と高等学校の接続を意識した教育活動を施設一体型で推進する中高一貫教育校であり、ねらいや推進方法など、小中一貫教育とは異なる制度ではありますが、小中一貫教育を進める上で、参考となる取組について研究を進めていきたいと考えております。
<b>【コミュニティ・スクールと小中一貫教育の違い】</b>		
11	西部地区で行っている「コミュニティ・スクール」との違いが、今一つわかりません。	近年の学校が抱える課題として、例えば、複雑な家庭環境で育つ子どもや、特別な支援が必要となる児童生徒の増加などがあり、その対応や支援は多様化・複雑化しており、一人一人の教員や学年単位、学校単位の努力だけでは十分な対応が困難であると考えられます。 このような、これまでの小学校単位、中学校単位での取組から、中学校区単位での取組を充実させる観点から、小中一貫教育を推進する背景・理由の一つであり、コミュニティ・スクールによる「地域とともにある学校づくり」が求められている背景とも軌を一にするものと考えられます。 コミュニティ・スクールは、学校と家庭・地域をつなぐ仕組みであり、小中一貫教育は、教育課程の接続を基底にして小中学校の児童生徒間、教職員間をつなぐ取組です。 いずれも児童生徒に多様な人との関わりを経験させることをねらいの一つとしておりますので、コミュニティ・スクールと小中一貫教育は極めて親和性が高く、子どもたちの9年間の学びを支える仕組み・取組として、両輪の関係であると認識しているところであります。
<b>【特別支援教育の充実】</b>		
12	方針(案)を読ませていただきましたが、支援学級の運営や支援が必要な児童への具体的な対策案が出ていないように感じました。 この先方針を具体的に進めていく際には、ぜひとも障がい児を育てている保護者や現場で指導をしてくださっている先生の意見を取り入れていただきたいです。	本市におきましては、特別支援教育の充実として、個別の指導計画や支援計画を確実に引き継ぎ、個々の教育的ニーズや指導経過の情報交換を継続的に行う体制を整えること、教室環境の整備やユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業など、小中学校が共通した指導・支援に取り組むことなどを重点に進めてまいります。 また、本市の小中一貫教育導入に向けた準備を進める中で、保護者や教職

北広島市小中一貫教育推進基本方針(案)概要版

	提出のあった意見の概要	市の考え方(案を修正したときは修正内容)
		<p>員の意見を取り入れながら、特別支援教育の充実に取り組んでいきたいと考えます。</p>
13	<p>小中一貫教育導入を機会に現行小学校卒業で打ち切られている通級指導(ことばの教室・コムキタルーム)を中学卒業まで受けることができることを願います。さらにできることならば、それぞれの校区で、これらと同等の通級指導を受けることができる体制ができることを望みます。</p>	<p>中学校は放課後の時間が短いことや部活動が行われていることなどから、通級に結びつきにくい状況にあります。</p> <p>また現在、国が通級指導教室のあり方等について検討を進めているところであり、今後、国や道の動向について注視していきたいと考えております。</p> <p>なお、通常学級に在籍している特別な指導・支援が必要な生徒を、特別支援学級で通級指導のように個別に学習支援する取組を行っている事例もありますので、今後も、小中一貫教育を進める中で、他の対応事例も参考に児童生徒へのきめ細かな指導・支援に努めてまいりたいと考えます。</p>
14	<p>LDのうち、最も発見されにくいディスレクシア(ディスグラフィア、ディスカリキュアも含めて)については、通常級に数%いると言われながら、小学校での早期介入がなされないまま、高学年、中学校へと進み、二次的な困難を引き起こしている可能性があると思われます。</p> <p>特別支援教育を専門とする先生の通常級における巡回指導や、個々の子どもの困り感の共通理解を一貫教育の中で行えるようにと願っています。</p>	<p>ディスレクシアに起因する症状としては、漢字、ひらがな、カタカナの他、英語や算数の領域における顕在化も認知されているところであり、本市といたしましても、様々な学習障がいに対応した、早期発見・支援のための仕組みの構築が大切であると認識しております。</p> <p>本市が進める小中一貫教育では、一人一人の子どもの実態やニーズに応じた一貫した教育を推進していくために、特別支援教育についても系統性を重視した教育活動を推進していくこととしております。</p>
15	<p>中学校になってから、他教科に比べて、英語の習得だけが特異的に困難な子どもがいることは経験的に知られていますが、その原因の一つが英語型ディスレクシアであることは、ほとんど気付かれないまま、英語嫌いになってしまう残念なケースが多いようです。</p> <p>小学校英語教科では、旧来型指導法にとらわれないRTIモデルの活用や、研究の進んだ新たな指導方法を積極的に取り入れ、ディスレクシアの有無にかかわらず、どの子どもにも取り組みやすい指導方法を検討いただけるように願います。</p> <p>南魚沼市などでは、すでに先駆的取り組みとして、シンセティックフォニックスを使い始めたと聞いています。指導法も研究とともに開発が進み、新しくなっていますので、研究会など積極的に開催、参加出来る環境を作っていただきたいと願っています。</p>	<p>さらに昨年5月の教育再生実行会議の第9次提言では、発達障がいを早期に発見し、適切な支援につなげるための仕組みづくりや、各地方公共団体における一元的な体制の整備など、発達障がいのある子どもたちへの教育の充実が求められておりますので、このような国の動向にも注視してまいります。</p> <p>ご要望をいただきましたRTIモデルやシンセティックフォニックスの活用につきましては、関連する研究会や講演会等に学校関係者が参加する機会の確保や情報収集に努めていきたいと考えます。</p>
16	<p>子どもたちの9年間連続した「確かな学び」を保証するためにも、通常級における合理的配慮の研究と実践をよろしく願いいたします。</p> <p>また、障がいについての理解も、ICFの視点から大きく変更されており、それに伴って支援についても様々なアプローチの可能性が広がっていると聞いています。</p>	<p>障がいのある児童生徒に対する教育を小中学校で行う場合の合理的配慮につきましては、①専門の教員や支援員等の確保、②施設・設備の整備、③個別の指導計画や支援計画に対応した柔軟な教育課程の編成や教材等の配慮、などが考えられます。</p> <p>本市におきましては、各校ごとの特別支援教育コーディネーターや、計画的</p>

北広島市小中一貫教育推進基本方針(案)概要版

	提出のあった意見の概要	市の考え方(案を修正したときは修正内容)
17	<p>支援員の継続的な研修の機会充実を、よろしく願いいたします。</p> <p>合理的配慮の正しい認識を保護者・子ども・学校の間で共通に持てるよう、地域での働きかけを積極的に行っていたきたいと願っています。折角の支援ツールを、大人がその使い方を知らないばかりに、困っている子どもに届けられないことがないように、また、始められた合理的配慮が、きちんと小中一貫の中で引き継がれていくように、支援に関わる関係者の一層の連携と研鑽の機会の確保をよろしく願いいたします。</p>	<p>に配置拡大を行ってきた特別支援教育支援員や介助員等による支援の充実や各中学校区が一体となった体制の下、合理的配慮の視点を踏まえた個別の指導計画や支援計画を保護者の皆様と十分な話し合いの上で作成し、教室環境の整備やユニバーサルデザインの視点も取り入れた授業等を展開してまいります。</p> <p>ご指摘をいただきましたように、合理的配慮の正しい認識は、教職員のみならず、家庭や地域にも浸透を図ることが大切でありますので、今後、中学校区ごとで開催を予定しております「教育を語る会」等で話題にまいります。</p> <p>なお、研修機会の充実につきましては、これまで、北海道教育委員会主催の特別支援教育事業改善充実講座研修への参加や北広島市教育研究会の障がい児部会における研修の実施、各学校のコーディネーターを対象とした情報交換や専門家による実践的な講演会等を行っており、各学校におきましても、コーディネーターを中心とした校内の課題に基づく研修を実施しておりますが、小中の接続を意識した視点での研修についても充実を図っていきたいと考えます。</p>
18	<p>「板書スタイルの統一やノート指導の継続」はこれまで言われてきた小中学校のギャップを埋めるために有益と考えます。一方、「統一」のイメージがいま一つつかめず、通常級にいるLD傾向のある子どもにとって、どんな影響があるのか懸念しているところです。すでにワーキング・グループ研修会や北広島市教育研究会など、先生方の準備も進行しているようですので、小中一貫教育実施に向けて、検討を重ねていただきたいと願っています。</p>	<p>小学校の教員間で板書の構成やノート指導の方法に統一的な考え方が明確になっていないと、担当が代わった際には、児童に戸惑いや混乱を招いたり、つまずいたり自主的な学習活動の支障につながる考えられます。</p> <p>このようなことを回避するためには、板書の構成やノート指導の方法を教員間で統一した考え方に沿って実践することが重要と考え、「統一」という表記を用いております。</p> <p>なお、通常学級に在籍する学習障がいを持つ児童生徒に対して、合理的配慮の観点も踏まえ、板書やノート指導の方法を緩やかに決めておくことは、児童生徒の戸惑いを減らし、学習活動に集中しやすい環境をつくる上で、大切な取組となります。</p> <p>本市が進める小中一貫教育では、小中学校の教員が協働して、発達段階を勘案しつつ、基本的なスタイルを構築し、板書やノート指導の充実にも努めてまいります。</p>
19	<p>上記に加えて、評価方法(テスト)についても、小学校と中学校では大きな隔りがあるようです。小学校でのテストとは異なり、教科ごと、また、担当の先生ごとに形式(用紙や文字の大きさ、配置など)が変わるため、LD傾向にある子どもにとっては、デメリットとなる可能性があります。ユニバーサルデザインによるテストでの平均点アップなどの報告もみられるようですので、テストについても、全体での検討をよろしく願いいたします。</p>	<p>小学校では單元ごとに子どものノートやワークシート、作品などの多様な評価資料を基に評価が実施されていますが、中学校では、こうした單元ごとの評価とともに、テスト範囲が広い中間試験や期末試験が行われ、評価資料として活用されます。</p> <p>また、小学校までの3段階の評定と中学校の5段階の評定の違いにより、児童生徒や保護者に戸惑いも見られます。</p> <p>全国の小中一貫教育の先進事例におきましては、小学校6年生の3学期と中</p>



北広島市小中一貫教育推進基本方針(案)概要版

	提出のあった意見の概要	市の考え方(案を修正したときは修正内容)
		<p>学校1年生の1学期の評定の比較や、定期試験の小学校高学年での段階的導入など、評価評定の改善に取り組んでいる学校が広がりつつありますが、本市におきましても、小学校高学年の一部教科での定期考査や、評価や評定の実施方法について研究を進め、小学校段階から中学校段階への円滑な移行を図ってまいります。</p> <p>また、学習障がいを持つ児童生徒につきましても、合理的配慮の観点も踏まえた個に応じた評価・評定に配慮する必要があると考えております。</p> <p>ご意見をいただきましたユニバーサルデザインの視点に立ったテストについては、教科の特性などもあり、どこまで対応できるかも含め研究していく必要があると考えますが、児童生徒がテストの形式によって戸惑うことがないように十分配慮しながら、工夫改善に努めてまいります。</p>
<b>【家庭・地域との協働】</b>		
20	<p>日頃の先生方のご苦勞を考えると、地域の人々の力をたくさん借りることもよろしいかと思えます。</p>	<p>近年の学校が抱える課題は、例えば、複雑な家庭環境で育つ子どもや、特別な支援が必要となる児童生徒の増加など多様化・複雑化しており、一人一人の教員や学年単位、学校単位の努力だけでは十分な対応が困難であるという認識の広がりが、小中一貫教育の導入が求められる背景・理由の一つとなっております。</p> <p>本市が進める小中一貫教育は、中学校区における児童生徒の実態や課題を踏まえた家庭学習習慣や生活習慣の確立、地域貢献活動等を通じた豊かな人間性・自己有用感の醸成等を目指すものであり、家庭や地域の皆様との連携・協働を通して推進していくことを考えております。</p> <p>いただきましたご意見も参考に、北広島市小中一貫教育推進基本方針(案)の「地域との協働関係の強化」に取り組んでまいります。</p>
21	<p>地域の人の役割を明確にして欲しいです。どうすれば良いのか？</p>	<p>本市が進める小中一貫教育は、中学校区における児童生徒の実態や課題を踏まえた家庭学習習慣や生活習慣の確立、地域貢献活動等を通じた豊かな人間性・自己有用感の醸成等を目指すものであり、家庭や地域の皆様との連携・協働を通して推進していくことを考えております。</p> <p>いただきましたご意見も参考に、北広島市小中一貫教育推進基本方針(案)の「地域との協働関係の強化」について、今後、丁寧に説明したいと考えております。</p>
22	<p>〇〇地区で、△△少年団の指導をしています。 学校の先生から小中一貫教育の話聞いて、小中学生のつながりは大事なので、よい取り組みだと思いました。</p>	<p>近年の地域コミュニティ形成の難しさ、三世同居の減少、共働き世帯や一人親家庭の増加といった様々な背景の中で、大人と子どもとのコミュニケーションが減っているとの指摘があります。</p>

北広島市小中一貫教育推進基本方針(案)概要版

	提出のあった意見の概要	市の考え方(案を修正したときは修正内容)
	<p>△△少年団では、中学校の指導者とも連絡を取り合い、合同練習なども行っています。中学校へ行って△△をしている子には、声をかけています。</p> <p>中学校へ行ってからなかなか馴染めない子もいるので、小学校から中学校へのつながりは大事だと実感しています。</p> <p>市全体で小中のつながりを大事にする教育をすすめ、健やかな子どもを育ててください。私も少年団指導者として、がんばります。</p>	<p>また、子どもがいない世帯の増加、一世帯当たりの子どもの数の減少、TVやゲーム、インターネットに費やす時間の増加などを背景として、屋外で子どもが集団で遊ぶ機会や、年齢の離れた子ども同士の関わりそのものが減っているという現状も指摘されています。</p> <p>家庭や地域における教育の役割は引き続き重要であり、その役割の全てを学校教育が担うことはふさわしくありませんが、このように家庭をめぐる状況が変化し、地域社会における子どもの社会性育成機能が低下する中で、多様な形での異学年交流の活発化、より多くの多様な教員が児童生徒に関わる体制の確保、中学校区を単位とした地域の教育力との連携を図る小中一貫教育という手法への期待やニーズが高まっているといえます。</p> <p>スポーツ等の少年団活動が実際に行われている地域におきましては、児童生徒が多様な大人や異学年との関わりを経験し、興味・関心の多様化や個性の伸長への対応が早い段階から実践されており、児童生徒への高い社会性を育む重要な役割を担っておられますことに、関係者の皆様に敬意を表する次第です。</p> <p>本市が進める小中一貫教育は、地域とともに豊かな教育環境をつくることを取組の一つとしていることから、今後も、少年団など地域で子どもたちの健全育成に努めている団体のご協力をいただきながら、小中学校の円滑な接続に努めてまいります。</p>
23	<p>こどもの健全育成のためには、学校と家庭の連携が欠かせません。特に子供の成長に大きな影響がある父母への啓発活動は大切です。子供への虐待をしつけと勘違いしているケースやネット・ゲーム等メディア依存の影響などに無関心な親が多い傾向にあります。子どもの心や身体の発達と学力は強い関係性があるので、対策が必要だと思えます。</p> <p>&lt;理由&gt;</p> <p>思春期は人との関わりの成長期、人と深く関わる力が最も成長するときです。特に家庭における生活習慣が大きく影響します。学校と連携して子供を育むことが必要です。</p> <p>父母へ子育て情報の発信と考える機会をつくり、小中一貫して子どもの健全育成に取り組むことが必要です。</p>	<p>ご指摘をいただきましたように、子どもの心身の発達の早期化に伴う興味・関心や個性伸長の多様化への対応や、家庭や地域における子どもの社会性育成機能の強化にあたり、学校教育の役割への期待は大きくなっておりますが、その役割の全てを学校教育が担って成果を上げることは難しいと考えます。</p> <p>小中一貫教育は、児童生徒の心身の発達段階に配慮した、より多くの多様な教員が児童生徒に関わり、教育活動を推進する取組でもありますが、学校単体での努力では限界があり、学校、家庭、地域が協働して取り組むことで、子どもたちに確かな力をつけていく必要があります。</p> <p>北広島市小中一貫教育推進基本方針においても、中学校区ごとの学習面でのスタンダードの取組と併せ、家庭・地域と一体となって生活習慣の定着をめざすスタンダードを確立することや、日常生活の見直しや各種通信機器(スマホ・インターネット等)利用のルールづくりを積極的に行っていくこととしております。</p> <p>本市では、今後、中学校区ごとで開催を予定しております「教育を語る会」等を通して、学校・家庭・地域が一体となった小中一貫教育の取組意義を共有し、子どもたちが健全に成長するための家庭の役割について考える機会になるよう、必要な取組の情報発信に努めてまいります。</p>

北広島市小中一貫教育推進基本方針(案)概要版

提出のあった意見の概要		市の考え方(案を修正したときは修正内容)
<b>【教職員の業務負担について】</b>		
24	<p>この北広島市小中一貫教育推進基本方針(案)を読んでみて、近年盛んに言われている小学校から中学校へのスムーズな移行、接続がより良いものになっていくと期待します。同時に教師の負担についても真剣に考える必要があると思います。</p> <p>小学校、中学校の教諭も人間で、ここに携わる人が生き生きとすることによって、ここで学んだ子どもたちが大人になったときの生きる力になればいいのかな…と思います。</p>	<p>ご指摘をいただきましたように、小中一貫教育の導入に伴い、教職員の負担が増すのではないかとご意見はよく聞かれるところです。</p> <p>小学校と中学校は、児童生徒の発達段階に応じて教育活動が異なるため、指導體制や方法などの様々な違いが、それぞれの学校の文化として積み上げられてきました。</p> <p>小中一貫教育は、義務教育9年間を連続した教育課程として捉え、児童生徒・学校・家庭・地域の実情等を踏まえ、より良い教育環境づくりを進める取組のため、小中一貫教育の導入に伴って、既存の校務や教職員の役割分担の見直しや明確化など、小学校と中学校がこれまで培ってきた組織文化の違いを乗り越える必要が出てきます。</p> <p>しかし、全国の小中一貫教育の先進事例においても、導入当初における教職員の業務負担が指摘されましたが、全教職員の共通理解の下、協働で教育を進めることで、結果として負担が軽減される側面も報告されています。</p> <p>例えば、いじめや不登校、問題行動などが減少し、その結果として、教科指導、学級経営や学年経営が円滑に行われるようになった事例や、一人の教師が複数の学級で学習を進める教科担任制の導入により、授業の反省を次の授業に生かし、指導方法の工夫改善につなげたり、教材研究や準備に多くの時間をかけることが可能となり、授業の効率化が図られた事例があります。</p> <p>更に、小中一貫教育の導入を通じて、校長を中心に、それぞれの活動について、どういった意義があるのか、改善点はないかなど、教職員全体の意識の共有を図り、子どもたちの成長や変容を全ての教職員が実感して更なる改善への意欲が高まることも期待できます。</p> <p>本市におきましては、中学校区ごとに設定する「めざす子ども像」を共有し、小中が協働して取り組む意義を全教職員で理解し、全教職員が充実感を持って教育活動を展開できるよう各中学校区における小中一貫教育の導入体制を整備してまいりたいと考えます。</p>
25	<p>小中一貫教育の導入により、現場の先生方の業務負担が増えるのではないのでしょうか。</p>	
26	<p>小中一貫教育実施を機に、教育における地域の役割を再考し、先生方の加重な負担の見直しを願うものです。</p>	
<b>【教職員の増員について】</b>		
27	<p>良き「小中一貫」を強力に推進するためには、組織力の向上が望まれる。日本の将来を支える子どもたちを成長させていくための投資(教職員の可能な限りの増員)をお願いしたい。</p>	<p>次に、教職員の増員についてであります。教職員の定数は、毎年の各小中学校における児童生徒数や学級数に応じて算定される仕組みとなっており、小中一貫教育を導入することが教職員の定数を算定する根拠となっていないのが</p>

北広島市小中一貫教育推進基本方針(案)概要版

	提出のあった意見の概要	市の考え方(案を修正したときは修正内容)
28	<p>11月の教育を語る会の際にも質問が出ていたようですが、先生方が今以上に多忙にならないように、是非、人事面、予算面での裏付けをよろしくお願いいたします。</p>	<p>実情であります。</p> <p>全国の小中一貫教育の先進事例におきましても、児童生徒数や学級数に応じて算定され配置された教職員数の枠組みを基本として小中一貫教育の実践を続けております。</p> <p>本市におきましては、通常の教職員の定数配置を基本とした小中一貫教育を導入し、取組の推進と改善を重ねていく中で、個々の業務の見直しや創意工夫、効率化を図りながら、中学校区の組織力の向上に努めてまいりたいと考えます。</p> <p>なお、小中学校の教員による「相互乗り入れ授業」の実施を考えていますが、今後、国や道への加配を要望したり、時間講師や授業支援ボランティアの活用などについて、調査研究してまいりたいと考えております。</p>
<b>【魅力あるまちづくりの推進】</b>		
29	<p>北広島団地内に子供が小中学校へ通う世帯(30代～40代)が多く定住することが、今後の北広島市の発展につながる事になっております。</p>	<p>ご指摘をいただきましたように、活力ある地域コミュニティの形成や本市の魅力あるまちづくりを進めていく上で、重要な課題であると認識しております。</p> <p>北広島団地は、まちづくりの核となる住宅団地として、昭和45年に造成が開始され、北広島市の発展をけん引する地区として成長してきましたが、近年は少子高齢化の影響から、市内で最も高齢化率が高く、人口減少が進む地区となっております。</p> <p>北広島団地への新しい人の流れをつくり、再びまちの発展をけん引する地区として成長することを目指し、平成28年3月に策定された「北広島市まち・ひと・しごと創生総合戦略」において、北広島団地の活性化につながる施策を重点的かつ戦略的に取り組むこととしております。</p> <p>教育環境の充実も、子育て世代の定住を働きかける大きな要素となるため、本市の総合戦略においても、小中一貫教育など特色ある教育環境の整備を図っていくことを掲げております。</p> <p>ただし、小中一貫教育は、定住促進だけを目的としたツールではなく、小中学校が協働し、家庭、地域と連携を図りながら、義務教育9年間の教育の質を高めていくことで、子どもたちに確かな生きる力を育むことを第一のねらいとしております。</p> <p>その取組を充実し発展させていくことで、「北広島で子育てをしたい」、「北広島の小中学校に我が子を通わせたい」と願う子育て世帯の転入が進むことにつながりたいと考えます。</p>
<b>【小中一貫教育の充実に向けて】</b>		

北広島市小中一貫教育推進基本方針(案)概要版

	提出のあった意見の概要	市の考え方(案を修正したときは修正内容)
30	<p>様々な取組について、近年の子供達の環境を考えるに必要な事だと感じた。今は子供の人数も減少しており、共に学ぶ仲間もクラス数も減少しているので、目もいき届き、より丁寧な指導が出来るのではと思う。</p> <p>しかし、その反面、周りの事もよく見え、色々な事に気づく子供も増えていると思う。</p> <p>学校という社会の中で学力の向上とともに、心の成長も拾いつつ、心身共に成長してゆけるような環境作りがより良い学習環境につながってゆくと思う。</p>	<p>近年の子どもの発達の早期化や生徒指導・学習指導上の問題等への対応、学習内容の高度化や社会性育成機能の強化といった学校教育をめぐる課題に対応する観点から、小中一貫教育を導入する市町村が全国的に増えてきており、実践を積み重ねていく中で、学習指導面、生徒指導面、児童生徒の心の育成や教職員の意識改革等で一定の成果があるとの報告がされています。</p> <p>特に、学校規模が小さい校区の場合は、小中学校段階を一体的に捉えて、一定の児童生徒数を確保することにより、学校行事の活性化や多様な学習集団の編制、異学年交流の機会の確保等が可能となり、小規模校の学校運営の課題とされる児童生徒の社会性の育成、切磋琢磨する機会や、大人や友人の多様な考え方に触れる機会の確保に大きな効果が期待できます。</p> <p>本市が進める小中一貫教育は、このような利点を十分に生かし、ご意見をいただきましたように、児童生徒の学力の向上や、心身の成長を支える教育環境づくりのツールとして、改善も加えながら発展させていきたいと考えます。</p>
31	<p>推進基本方針(案)に、子供の相対的貧困に対応する施策が不足しています。少なくともクラスに5～6人程度は該当する子供たちがいるはずで、この子達の学力向上や生活支援(食事や居場所の提供)など地域と一体となった取り組みが欠かせません。学校、教育委員会、市、地域の人たちが共通認識の下に取り組む必要があります。貧困と学力は比例するとも言われています。</p> <p>&lt;理由&gt;</p> <p>相対的貧困家庭は6人に1人です。こうした家庭の子供たちの貧困の連鎖を断ち切るためには、それぞれの組織が一定の施策の下に関連付けて取り組む必要があります。</p> <p>子どもの貧困対策は小中一貫して取り組むべき課題であると思います。</p>	<p>文部科学省の委託研究では、家庭の社会経済的背景(SES)が子どもの学力格差を生んでいるという実態とともに、SESによる学力格差を一定程度抑え込んでいる学校の事例も明らかになっています。</p> <p>貧困課題を解決していくためには、子どもの学力を高め、自立する力を育てていくことが必要だと考えています。</p> <p>そのために、黒板に「めあて」を書き、授業のねらいを明確にした板書構成を意識したノート指導、児童生徒に宿題だけではなく自主学習等に取り組ませ、教員が毎日チェックやコメントを行うなどの充実した家庭学習の指導、更に、学習内容の基礎・基本の定着を図る少人数指導、ティームティーチング、習熟度別指導の実践や、教科の指導内容や指導方法について、小学校と中学校とが積極的に連携した取組を行ってきているところであります。</p> <p>北広島市小中一貫教育推進基本方針(案)概要版では、ご指摘をいただきましたように、SESに起因する児童生徒の学力向上策等について言及していませんが、就学援助や生活困窮者向けの学習支援事業等にも取り組んできており、今後も小中学校が連携・一貫し、学習の流れ・板書構成・ノート指導・家庭学習等、義務教育9年間の系統的・継続性のある学習指導の方策を学習面での「スタンダード」として確立し、全ての児童生徒の確かな学習規律・習慣の定着を図っていくこととしております。</p>
32	<p>概要P3の4「特色ある教育活動の展開」、5「地域との協働関係強化」を積極的に進めていただきたいと思います。</p> <p>北広島市のすばらしい自然環境を生かした教室外の授業や行きかう人との</p>	<p>本市の豊かな自然環境を生かした授業や体験活動等は、地域の自然に親しみ、関心を持ち、大切にしようという心を児童生徒に育む上で、有効な取組であり、ふるさとを学ぶことで、ふるさと意識を醸成することにもつながる意義のある</p>

北広島市小中一貫教育推進基本方針(案)概要版

	提出のあった意見の概要	市の考え方(案を修正したときは修正内容)
	<p>出会い等が、小中一貫教育のひとつにもなると考えます。</p>	<p>取組であると考えます。</p> <p>また、小中一貫教育は、児童生徒に多様な人との関わりから思いやりや社会性を学ばせたいという願いが込められた取組でもありますので、校外で出会う人とのふれあいも大切にしていかなければなりません。</p> <p>校外での授業や体験活動は、これまでも現行の学習指導要領に沿って学校単位で実践されておりますが、今後は、小中一貫教育を進めていく中で、児童生徒合同での授業や体験活動等、多様な異学年同士が関わる機会や、地域行事への参加や貢献活動等を通して、児童生徒の豊かな人間性と自己有用感の醸成が深まっていくものと考えます。</p>
<p>33</p>	<p>平成28年度北広島市第2回教育を語る会「北広島市がめざす小中一貫教育について」の配布資料にある英語教育の目標設定について、目標設定の必要性和メリットは承知しています。しかし、一方で、英語教科を英検(中3で英検3級50%など)のみで測るのは偏りが生じかねないという懸念があります。多様性のある評価の工夫を検討していただければと思います。</p>	<p>次期学習指導要領実施に向けたこれまでの中央教育審議会の部会における審議の中で、英語教育も含めた学習評価については、資質・能力の確実な育成につながるよう、目標と評価の観点を一致させるとともに、資質・能力を多面的・多角的に見取る評価の工夫を促進することとしております。</p> <p>平成28年度北広島市第2回教育を語る会「北広島市がめざす小中一貫教育について」の配布資料にあります「中3で英検3級を50%に」とは、英語教育の充実・改善を図るとともに、新たな英語教育の在り方を検討していく上で、必要な実態を把握することを目的に文部科学省が行う「英語教育実施状況調査」の結果、得られたデータ等を基に国が定めた目標設定であり、次期学習指導要領においては、グローバル化に対応した基礎的な英語力を育成するための成果指標の一つであると捉えております。</p> <p>本市が進める小中一貫教育を含めた学校教育におきましては、習得すべき学習内容について、きめ細かな学びを実践していくことで、その学年段階で必要な力を確実に身につけさせること、新しい時代に必要となる資質・能力を育成していくことを大きなねらいとして、授業をはじめとする教育活動の充実を図っていきたいと考えます。</p> <p>また、現代の社会を生き抜いていく子どもたちには、知識・技能はもとより、学ぶ意欲や自ら課題を見つけ学ぶこと、主体的に判断し行動すること、より適切な問題解決に到達することなどの「確かな学力」を身につけさせることが重要であり、そのためには、中長期的な指導の計画が必要であります。</p> <p>本市といたしましては、小中一貫教育の導入・推進によって、9年間の系統性・連続性に配慮した教育課程の編成や指導形態などの工夫改善を図り、個々の児童生徒の実態や教科の特性に配慮した一貫した指導を進めてまいりたいと考えます。</p>